



「趣旨採択」 行政常任委員会 移設を行政常任委員会で『趣旨採択』

原油高騰から市民と事業者を守る施策を！

燃料高騰のこの冬を支えて！ 市民と事業者を支える施策を！

りすたへピアノ移設の請願審査 行政常任委員会で『趣旨採択』

11月19日に千葉勝・小林尚文両議員が紹介議員となって提出された「グランドピアノを複合施設りすたに移設を求める請願書」に対し、11月25日市議会行政常任委員会が開催され、全会一致で「趣旨採択」と議決されました。日本共産党のくまがい桂子市議は賛成意見を述べていました。



【趣旨採択とは】

趣旨採択というのは、「請願については妥当であるが、現実性の面で確信が持てない」などの場合、不採択とすることもできないとしてとられる、請願に対する決定の方法で、これは会議規則に明らかな記載はなく、政治的なものといわれています。

採択の効果としては、行政処分のように直接の効果や実効性はありませんが、行政側に送付し処理の経過と結果の報告を求めることができます。

ですから、送付を受けた行政機関において、誠実にこれを処理することが求められています。

この審査の行方を見守るために参加した傍聴者は、「よかったね」と喜びあっていました。

終了後、千葉勝紹介議員は傍聴者に対し、「市所有財産の場合、移設費用は市が持たなければならない。また、設置場所の検討や運用規定、利用団体などとの合意をはかる課題もある。」などと説明していました。

現在保管されている場所の湿気からくるカビ・サビの危険から、ピアノをできるだけ早く安全な場所に移動するためには、まだ解決しなければならない課題があり、今回請願署名にかかわった役員たちは、「早急に関係機関との話し合いを重ね、グランドピアノの移設を実現させていきたい」と話していました。

日本共産党夕張市委員会では、12月7日、原油高騰から市民と事業者を守るための要望書を提出し、市長は不在でしたが、副市長と懇談しました。

新型コロナの感染防止対策をはじめ、市民のいのちと暮らしをまもり、生業を支える取り組みに日々ご尽力いただいていることに深く敬意を表します。

原油の国際価格の高騰に歯止めがかからない中、市民生活や地元中小事業者の生業に深刻な影響を与えています。本市の灯油価格は、11月15日現在、コープさつぽろの宅配灯油は1リットルあたり114円で、昨年より30円以上高

い水準となっております。ガソリンも平均で1リットル当たり166円を超える高値が続く、さらに、食料品の相次ぐ値上げや電気料金など光熱水の引き上げが家計を圧迫しています。また、農家や運送業者、クリーニング業者など燃油を大量に

使用する業者は、昨年来のコロナ禍に加え、地元の業者も悲鳴が上がっています。本市では、今年12月夕張市

冬季生活特別支援金
給付事業」について



提案され議決されることと思いますが、この事業は対象者が限られていることや、金額的にも1リットルにつき影響額20円としていること、また、200リットルでは一般家庭の1か月分であること、長期化するコロナ禍で在宅時間も増加しており、さらに、働かない中で、原油価格の高騰による市民のくらしや営業に対する打撃はより深刻です。

さらに、これから本格的な寒さを迎える中、学校や公共施設への燃料代が予算編成時の水準で十分賄うことが出来るのかも強く危惧するところですが、こうした経緯を踏まえ、さらなる市民生活支援と生業支援策等を講じるよう、以下について要請します。

1、生活保護世帯を含め、低所得世帯、ひとり親、高齢、障害者世帯等への冬期間福祉制度をさらに拡充・実施し、対象世帯に通知すること
2、地元中小業者に対する燃料費助成制度を創設し、実施すること
3、学校や公共施設の燃料代を十分確保することとあわせ、民間の福祉施設などの暖房費への助成を行なうこと
4、スクールバスをはじめ、民間事業者、タクシー事業者に対する支援策を講じること
以上

対応した本間和彦副市長は、「対象世帯への通知に関しては、民生委員の皆さんにお知らせを兼ねて活動していただきたいと考えている。財政再建中であり、最善の方策とはならないがベターな方法を考えたい。」と話していました。

くずさんの夕張歴史散歩(170)

石炭博物館模擬坑の火災(番外編⑤) 採炭方法と支柱の変化

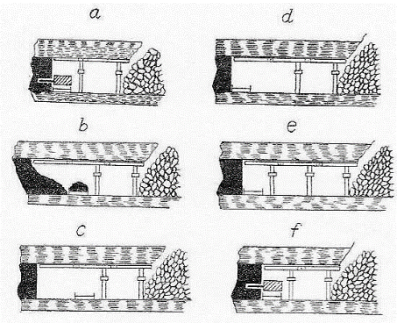
採炭方法も、1932〜3年(昭和7〜8)頃からピックによる採炭に進化します。切羽支柱も、当初は木材での枠組みでしたが、夕張鉱では1950年(昭和25)11月、鉄柱カッペ採炭法*が採用され、支柱も鉄柱に代わっていきます。切羽も二〇〇メートルにも及ぶ長壁面(ロングと呼ばれる)になり採炭方法も、コールカッターが採用されるようになりました(ピックも併用)。当然なことに採炭能率は飛躍的伸びました。

生産能力は伸びたが危険度も増大

当初は、採炭後の払跡で鉄柱を回収する際に(図のe)、最も危険が伴い鉄柱の回収もままならない状況があったようです。技術の進歩は必然ですが、人命を犠牲にしての進歩はありません。

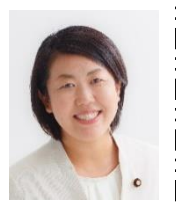
*カッペ採炭法の図

(北炭70年史より)



- a 切羽はカッペと鉄柱で支えられ、H型コンベヤー上にコール・カッターを乗せて石炭を切り上げていく。
- b,c 石炭をくずし、コンベヤーで搬出し、カッペをつなぐ。
- d 切羽面を一直線にして、コンベヤーを連結したまま移動する。
- e 最前列に鉄柱をたてる。
- f 払い跡の鉄柱を回収して、天盤を落とす。カッペを外し、一サイクル作業を完了し、aにもどる。

【訂正】早速、元炭鉱労働者から誤りの指摘がありました。前号(番外編④)の中で通気の基本の項で、入気側と排気側の括弧書きが逆になっていました。正確には入気側はゲートと言い、排気側は上添いでした。



岩淵 友「国会かけある記」
参議院議員
岩 淵 友

軍事費削って命と暮らしを守る予算を

日本共産党第4回中央委員会総会で、来年夏の参議院選挙の比例代表の予定候補として発表されました。これまで活動地域としてきた北海道と東北に新たに北関東が加わり、みなさんと2期目に挑戦することになりました。

11道県、実に国土の45%が活動地域となります。比例での5議席確保、北海道選挙区での松橋ちはる予定候補の勝利、共闘の前進のために全力を尽くす決意です。

先月、松橋さん、道議団のみなさんと行った政府交渉の重要性がいよいよ増えています。中止を求めた日米共同訓練が4日から始まっています。オスプレイが参加しますが、普天間基地所属のオスプレイが先月、水筒を落下させたばかり。

しかも、先日、三沢基地所属のF16戦闘機がトランプルを起こし、2本の燃料タンクを投棄しました。そのうちの1本が青森県深浦町の民家の前に落下。住民からは「一歩間違えたら、自分の家に落ちていたかもしれない。おそろしい」「国民の安全や命をどう思っているのか」と怒りの声が上がっているのが当然です。

訓練を今からでも中止すること、日米地位協定を抜本的に改正すべきです。6日から臨時国会が始まっています。補正予算案には軍事費約7800億円が盛り込まれ、今年度の軍事費は6兆円を超えて過去最大です。道内で福祉灯油の取り組みが広がっています

が、国民の命やくらしを守るためにこそ予算を使うべきです。命とくらしを守れ!臨時国会でも力をつくします。